



▲生活動線を優先し、フロントスピーカーは天吊で設置。TD508MK3をリスニングポイントに向けている



▲サブウーファーはイクリプスのTD520SW。「映画を観たときの地鳴りのような低音がすごい」とオーナーも太鼓判



家族が集う
居心地のいいリビングを
そのまま“劇場”へ



▲部屋のオーナー・徳満裕二さん

ここで紹介する物件のAVシステム設置工事は、宮崎県の木田電業の手によるもの。同社は本誌では約1年ぶりの登場となる、元々は電気設備などの工事を専門としていたホームシアターインストーラーだ。ネットワーク工事などを含む専門知識を活かし、ホームシアタービジネスを始めたのがここ4〜5年のこと。そうしたベースを支えられたシステムインストールこそが、前述の「しっかりと施工」に直結する。機器の設置工事だけでなく、配線工事、今やAVシステムに必須となったネットワークの構築も専門家が受け持つことで、実際の安心感は何にも代えがたい。

実際に、この部屋のオーナーの徳満裕二さんの木田電業への信頼は厚い。建設会社を営む徳満さんが木田電業と知り合ったのは、太陽光発電システムの仕事が縁だという。今回は自宅を建設す

「しっかりと施工」は高い快適性に通じている

「リビングシアター」とは、リビングルームにオーディオビジュアル(AV)システムを設置し、ホームシアタールームと兼用とするもの。AVのための専用ルームを作るほどのスペースがない場合の選択肢とされることがあるため、ネガティブな印象を持つ方もいらっしゃるかもしれない。しかしながら、リビングにAVシステムが共存することはマイナス要素ばかりではない。しっかりと施工された施工がされれば生活動線を邪魔することもなく、普段の生活に、劇場的体験、をスムーズに溶け込ませることができるとだ。

「映画と配信」特集の重要テーマは、自宅で劇場的体験を得ること。ここまでは高画質・高音質化というアプローチでそれを目指してきたが、さらにひとつ重要なポイントがある。自宅で映画を観る際には、映画館では得られないような快適性を得ることもできるということだ。ここでは、快適さを追求したリビングに劇場的設備を持ち込んだ、そんな例を紹介したい。(本誌・柿沼)



▲スクリーンを巻き上げると、65インチのテレビが壁掛けて設置されている。もちろん、こちらの番組視聴や映画鑑賞も可能だ。また、写真左手の窓は2重サッシになっているため、部屋の気密性がひじょうに高い。防音などの特別な対策はしていないものの、音漏れについては心配いらないレベルになっているという

主なハードウェア

- プロジェクター：JVC DLA-X590R
- 液晶ディスプレイ：ソニー KJ-65X8500F
- AVセンター：ヤマハ RX-A1080
- スピーカーシステム：イクリプス TD508MK3 (L/C/R) TD307MK2A(LS/RS)
- サブウーファー：イクリプス TD520SW
- スクリーン：オーエス ピュアマットIII Cinem a (16対9、120インチ)
- 4Kレコーダー：パナソニック DMR-SUJ2060



▲照明を含むオートメーションシステムの構築も木田電業が得意とするところ。だが、あえてアナログでわかりやすさ志向のスイッチ類を配置。あくまでユーザーの気持ちや波むがゆえのセレクトだ

なお、隣には息子さんの家も建設中とのことだが、そちらにはホームシアターのシステムは設置していない。曰く、「それはこちらで。ご飯と、あとは酒もあるから(笑)」

その甲斐もあってか、映画を観るだけでなく、普段のテレビ放送を観るためにも5・1chシステムとプロジェクターが活用されている。特に、年末のNHK紅白歌合戦では、等身大で映し出される出演者の姿を見て、家族で大いに盛り上がったそうだ。

「劇場のような体験」というと身構えてしまうかもしれないが、再生品位だけを追うのではない劇場のありようも考えられる。こうした例をぜひ参考にしたい。

Shop Info.

木田電業 都城ショールーム「Has...」
 ●所在地：宮崎県都城山山之口町富吉4192-4
 ●問合せ先
 Tel：0986(57)4305
 Mail：info@kida-dengyo.com

木田電業はイクリプスの「パートナーショップ」。セミナーなどを通じて同ブランドの製品に対する知識だけでなく、音に関するさまざまな知識について習得しているという

るにあたり、照明や配線周りの施工を依頼することになったのだ。

照明関係は「ぜんぶ木田さんの言う通り」にしていると冗談めかす徳満さん。木田電業はスクリーン、ディスプレイ周りだけでなく家全体の照明をプロデュースしているのだが、よく見るとじつに細やかな配慮に溢れている。

ホームシアターの観点から言えば、画面に照明が当たると映像が見づらくなるわけだが、当然にそうしたことはない。間接照明主体で作られた部屋は、落ち着いた空気を醸すというリビング

に求められる快適性だけでなく、映像に対する没入度を担保する機能も持っているのだ。

徳満さんからのリクエストだというスポットライトも印象的だ。観葉植物に当たる光が床に陰を落とす。部屋を暗くしていくと、また雰囲気が変わるというわけだ。

重視したのは、あくまで住環境とし

ての居心地と雰囲気よき。玄関に入っ

てすぐのスペースは吹き抜けにして、そこには薪ストーブ。煙突は吹き抜けの天井にまで伸び、大黒柱が並ぶ。こうした内装に関して、徳満さんははじめから心に決めていたそうだ。子どもや孫たちが遊びに来て、ご飯を食べながらも楽しめるような空間にしたかったのだという。

そのリクエストを受けて、木田電業が提案したのがAVシステムのインストール。当初の計画にはなかったことだが、「つけちゃいましょう!」っていう

からさ。これも木田さんの言う通り(笑)なのだという。

そして、徳満さんがイメージする理想のリビングを邪魔しないようなシンプルなスピーカー構成と配置を計画。すべて天井の5・1chスピーカーを導入した。

ここで登場するのはイクリプスの製品だ。イクリプスのスピーカーは外観・音とも「ベスト」であると木田電業代表 木田弘信さんは言う。この評価には物理的に生活を邪魔しない設置性の高さも含まれているのだろう。



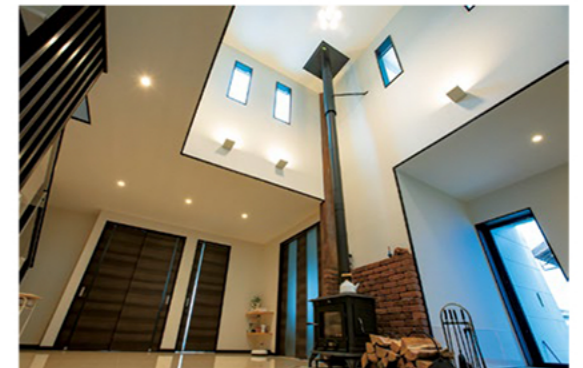
▲間接照明を組み込んだケースは、スクリーンの収納ボックスでもある。ハードウェアが主張しすぎないように配慮されている



▲プロジェクターにはJVCのDLA-X590Rを選択。スピーカーとともに白で統一したこともポイント



▲薪ストーブコーナーの周辺は、ケヤキの縁で覆われている。これはオーナーのセレクトで、暮らしていくうちに足が触れることにより、次第に味わいが出る木材を選んだという



▲薪ストーブ煙突が吹き抜けを通り、天井まで伸びる。吹き抜けのあるリビングシアターは、類を見ない開放感を実現している